

ホームランが飛びかった夏の甲子園、9月始めに開幕した高校球児のワールドカップ大会。日本は第3位、木のバットの影響が大きかったのか又相手投手の質が高かったのか、打線がもう一つでした。

2001年に社会人野球が金属バットの使用を禁止した一番大きな理由は、国際大会が木のバットを使用するようになったからです。

木のバットの材料は日本産アオダモ、カナダ産メイプル、アメリカ、カナダ産ホワイトアッシュです。アオダモは北海道から九州まで広く自生していますが、重宝されてきたのが北海道産のアオダモです。

東側の地区でいわゆる太平洋側で雪が少なく寒くて厳しい環境で育った木は木目が細かくて堅く、打ったときにしなるといわれています。

イチロー選手は日本の野球のときはアオダモ、2001年にメジャー挑戦のときはアメリカの気候などを考え、また大リーガーの大半がホワイトアッシュを使っていたため、イチローの一年目は反発力の強いホワイトアッシュを使用した。

ただ2年目の夏場に調子を崩し、慣れ親しんだアオダモに戻したら非常にフィーリングがよかったということで、それからずっとアオダモを使った。しかし良質のアオダモは残念ながら枯渇したため、2015年からはホワイトアッシュに戻しています。

今普及しているアオダモは材料が比較的やわらかいものが主流です。日本のように湿気が多い地域に一番適したバット材はアオダモです。かつてプロ野球選手が使うバットのほとんどがアオダモだったんですが、2006年に55%まで比率がさがり、2014年には5%まで減少しています。

いま現在プロ野球の選手は大半がメイプルのバットを使用しています。ホワイトアッシュとアオダモの中間する材といわれ、アッシュよりしなり、アオダモより反発力が強いバットです。

アオダモを守りきれなかった日本では今「アオダモ資源育成の会」によって定期的な植樹が行われ、野球界挙げてアオダモを未来に残そうという動きがあります。ただアオダモの成長は遅くバットとして使える太さになるには60~70年という長い年月がかかるため、一度途絶えた供給が復活するには長い年月がかかります。高校野球の国際大会は木のバットの使用ですが、アオダモの木の成長の現実とバット一本のコスト等考えますと、木のバットの使用は遠い将来だと思います。